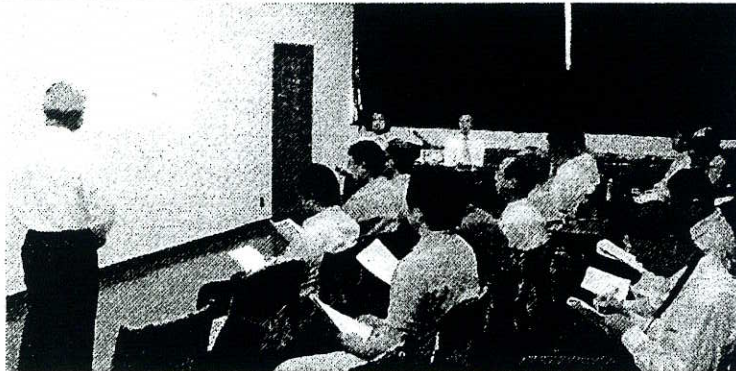


## 組合 関連情報

大阪府鏡工業協同組合(瀧田博彦理事長)は6月17日、大阪市生野区の鏡会館で「第13回OKKワークショップ」として「マネジメント・セミナー」を開催した。講師は荒井栄司大阪大学大学院教授と、フロンティア・アライアンスものづくりリエゾンオフィス(MLO)事業部の大橋正幸チーフプロデューサー。製品開発・製造の支援システムや新技術・商品開発の重要性、組織づくりな

# 鏡産学連携を提案 ワークショップ開催

OKKワークショップ



どについて学んだ。荒井氏は「新製品の開発から製造まで支援するシステム技術例」をテーマに、CAE、CAD、CAM、CAEなどの設計支援システムの現状と将来について講演。コンピュータの中に製品モデルを作成し、設計を検討してそのまま加工に流す方法やその際の留意点を解説した。大橋氏は「変革期(厳しいゲ

発から製造まで支援するシステム技術例」をテーマに、CAE、CAD、CAM、CAEなどの設計支援システムの現状と将来について講演。コンピュータの中に製品モデルを作成し、設計を検討してそのまま加工に流す方法やその際の留意点を解説した。大橋氏は「変革期(厳しいゲ

ローバル競争下)に生き抜ける企業とは」をテーマに、技術開発や商品開発の重要性、強い組織づくりとそれを支える人材育成について講演した。フロンティア・アライアンスは大学での研究開発の発展を目標として産学連携推進を目指す教員が出資して設立した合同会社。大橋氏は同社について「大学の先生方が持っている知恵を大阪の企業に活用してもらうことによって、大学が地域に貢献する」という皆さんと大橋氏の橋渡しをさせていただくと説明した。

講演会後の質疑応答で「このままでは業界がなくなるのでは」とささ思っている」という参加者の声に対し大橋氏は「余裕がないために意思決定ができず、一歩が踏み出せない構図」だと指摘。大学と連携するにも具体的なテーマを考え、「時間」が大事。今が決断すべき時」と述べた。「大阪大学には800人強の教授がいるので、活用しやすい手はない。1社で難しい場合は組合でやってみるか」と提案。荒井氏は「『鏡はこんなもの』と思っているので用途が限定されている。全然違う分野の人に話を聞けばヒントが得られるのでは」とアドバイスした。

業に活用してもらうことによって、大学が地域に貢献する」という皆さんと大橋氏の橋渡しをさせていただくと説明した。

講演会後の質疑応答で「このままでは業界がなくなるのでは」とささ思っている」という参加者の声に対し大橋氏は「余裕がないために意思決定ができず、一歩が踏み出せない構図」だと指摘。大学と連携するにも具体的なテーマを考え、「時間」が大事。今が決断すべき時」と述べた。「大阪大学には800人強の教授がいるので、活用しやすい手はない。1社で難しい場合は組合でやってみるか」と提案。荒井氏は「『鏡はこんなもの』と思っているので用途が限定されている。全然違う分野の人に話を聞けばヒントが得られるのでは」とアドバイスした。